

平成30年10月4日発行

調査: JA兵庫南・JAあかし・加古川普及センター
資料作成: 東播磨農業改良普及事業協議会
(加古川農業改良普及センター)

**ハスモンヨトウ、オオタバコガ
ともに依然として多い状況です。
キャベツ等の生育もすすみ、株での
発生も見られ始めていま**

1. 発生状況(10月4日調査)

(1)フェロモントラップでの誘殺数(誘殺期間14日間の頭数)

	魚住町			大久保町		要防除水準(14日間)
	清水	長池	柳井	大窪	松陰新田	
ハスモンヨトウ	395	55	85	210	255	200以上
オオタバコガ	98	71	77	48	82	40以上

(2)ほ場での害虫発生状況(20株調査の虫数) ※松陰新田はブロッコリー、他の地区はキャベツを調査

	魚住町			大久保町		備考
	清水	長池	柳井	大窪	松陰新田※	
ハスモンヨトウ	4	0	1	1	1群	全て若齢幼虫。松陰新田は分散前の若齢幼虫群
ヨトウムシ	0	0	0	0	2卵塊、1群	卵塊2つとふ化直後の若齢幼虫群
アオムシ	0	0	1	0	0	若齢幼虫
ハイマダラノメイガ	0	0	0	1	0	芯止まり被害部に老齢幼虫

2. 今後の防除と管理作業の注意点

↑ オオタバコガ、シロイチモジヨトウのほ場での発生は無かった

(1)ハスモンヨトウなど害虫防除の対策

- ①トラップでの誘殺数は少なめの地点もありましたが、ハスモンヨトウ、オオタバコガともにまだまだ多い傾向でした。ほ場周辺での成虫の飛来は依然として多く、今後も相当数の誘殺がみられます。
- ②キャベツ等の生育株ではハスモンヨトウやヨトウムシなどの発生が見られます。今後もダラダラと産卵が続き、発生が増えることが予想されます。ほ場での発生状況に注意し、早めの防除を心がけましょう。
- ③育苗後期～定植前に灌注する殺虫剤の効果は、概ね1ヶ月程度期待できますが、過信すること無く今後の害虫発生には十分に注意して下さい。

【キャベツ、ブロッコリー防除薬剤の一例】 ★ 使用時は農薬のラベルをきちんと確認してから使用しましょう!! ★

薬剤名	適用病害虫名	希釈倍率	使用回数	使用時期
Zボルドー	軟腐病、べと病、黒腐病	500倍	—	—
フェニックス顆粒水和剤	キャベツ コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ、ウハバノ類	2,000～4,000倍	3回以内	収穫前日まで
	ブロッコリー ハイマダラノメイガ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ		2回以内	
モスピラン 顆粒水溶剤	キャベツ コナガ、アオムシ アブラムシ類、アザミウマ類	1,000～2,000倍	5回以内	収穫7日前まで
		2,000～4,000倍		
	ブロッコリー コナガ、アオムシ、アブラムシ類、アザミウマ類	2,000倍	3回以内	収穫14日前まで

(2)適期追肥と降雨後の対策

- ①本年は台風や秋雨前線の影響で降雨が頻繁にあり、ほ場の乾きにくい状態が続いています。追肥や病害虫・雑草防除などの重要な作業が計画的に行いにくい状況ですが、タイミングを見計らい排水路の手直しと併せてきちんと行うように努めましょう。
- ②定植後14日ごろと結球初期(定植およそ1ヶ月後)に行う2回の追肥は、収穫量向上のために必須です。計画的に行えず施用時期が少し遅れたとしても省略せず、必ず施しましょう。

今回の調査は、10月18日の予定です。